

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2024年12月3日付(共同通信社配信)

プラごみ規制 合意できず

プラスチックごみによる汚染を巡る政府間交渉委員会の全体会で発言するルイス・バジャス議長。1日、韓国・釜山(共同)



【釜山共同】プラスチックごみによる環境汚染を防ぐための国際条約作りを進める政府間交渉委員会は2日、条約案への合意を先送りすることを決めた。国連環境総会で2024年末までに合意することを決めていたが、失敗した。25年に再び会合を開くが、難航が予想される。

最大の焦点となっているプラスチックの生産規制を巡り、厳しい規制を求める欧州連合(EU)側と、プラスチックの原料となる石油を産出する中東諸国側との溝が埋まらなかった。1日から2日にかけて韓国・釜山で開かれた全体会でルイス・バジャス議長は「作業は完了からはほど遠い」と述べた。

生産規制を巡っては、パナマやEU、島しょ国など100カ国以上が、条約発効後に開く第1回の締約国会議での国際的な削減目標の採択を提案。中東諸国側は「(条約は)あくまで廃棄物対策に絞るべきだ」と反対した。

日本は「できるだけ多くの国が参加する条約を目指

EUと産油国に溝 国際条約策定 先送り

プラスチック生産規制を巡る各国・地域の立場

※環境省などへの取材を基に作成

反対・消極的	賛成・積極的
廃棄物対策に絞るべきだ ・ロシア ・サウジアラビア など中東諸国	できるだけ多くの国の参加を目指すべきだ ・日本 国際的な削減目標を設定すべきだ ・EU ・島しょ国 ・アフリカ諸国

「後ろ向きだ」と日本を批判した。

青木一彦官房副長官は2日の記者会見で「実効的な枠組みが構築されるよう、早期の交渉妥結に向けて積極的に議論に貢献したい」と述べた。

一方、プラスチックの削減や環境流出の防止で条文案の整理が進んだ。ストローやレジ袋などの使い捨てプラや、有害との懸念がある特定の化学物質が使われたプラ製のおもちゃの製造を禁止する選択肢が盛り込まれたが、保留を示すかっこうが付いたままだった。

次回会合ではこの議長案をもとに議論を再開する。条約策定は22年に国連環境総会で決定した。

プラスチックごみによる環境汚染が世界的に深刻化していることから、2022年の国連環境総会で汚染を国際的に規制する条約を策定することで各国が合意。条約内容を協議する政府間交渉委員会が設けられた。24年末までに条約案を詰める作業を終えることになっており、11月25日に韓国・釜山で始まった4回目の交渉委で条約案に合意することになっていた。

「後ろ向きだ」と日本を批判した。議長は全体会合に先立ち、新たにまとめた議長案を1日に公表。生産規制は条文に盛り込まない案と、第1回締約国会議で改めて議論するとの両方の選択肢を維持した。

【問1】 プラごみ条約の国際交渉って？

プラスチックごみによる環境汚染を防ぐための国際条約づくりを進める会議

【問2】 合意できなかった理由は？

プラスチックの生産規制を求める EU と原料となる石油産出国との対立

【問3】 ルイス議長が公表した議長案は？

生産規制は条文に盛り込まない案と第一回締約国会議で改めて議論する案
よ 読めない文字は、かざりか、ともだちにきいてみてね

